

石見三宮岡本文書目録

佐伯 徳哉、西田 友広、目次 謙一
中司 健一、倉恒 康一、浅野 友輔

1、三宮岡本文書の概要と研究上の価値

【概 要】

かつて石見三宮社（大祭天石門彦神社、島根県浜田市相生町 黒川神社）の神官で、同社が鎮座する石見国那賀郡小石見郷（浜田市）の土豪であった岡本氏伝来の中世文書（一部近世文書を含む・後述）302通を目録化した。目録は、年紀のあるものは編年順に、また、無年号文書も極力年代比定を試み配列した。

原文書は、現在、行方不明である。本目録は、明治末年から大正・昭和初年頃にかけて行われた旧島根縣史編纂時に島根縣内務部學務課島根縣史編纂掛によって謄写された同文書謄写本（現在、島根県立図書館蔵）を底本として作成した。⁽¹⁾ なお、当該謄写本の写真版が、東京大学史料編纂所にも写真帳となって収蔵されているので、目録には、文書番号のほか、利用者の便宜のため、この写真帳の丁数を記しあげた。

底本である謄写本は、謄写中途のものや、ペンで加筆・修正されたもの、また誤写とみられるものを含んでおり、必ずしも良好なものとはいえない。しかし、現在のところ石見中部（石央地域）の中世後半から近世初頭にかけての文書群としては、小石見郷の肥塚文書とともに、もっともまとまりのあるものである。

目録収載文書数は、302通である。時代別に概ね区分すると以下のとおりである。まず、鎌倉時代の要検討文書が3通。南北朝期の17通（I）、室町時代（応仁元年〈1467〉より前）17通（II）、戦国時代（応仁元年以降、毛利氏の石見平定に伴い岡本氏が最終的に毛利氏・吉川氏に従う永禄5年〈1562〉2月以前まで）127通（III）、戦国時代から近世初頭（永禄5年2月以降）125通（IV）、その他・不明13通。なお、IVには、一部近世文書が含まれる。これは、仁保元棟（繁澤元氏・立節）関係文書、吉川広家関係文書が、天正期から慶長5年（1600）の関ヶ原の戦い以降近世にまたがるためである。

本文書群は、16世紀第3四半期の永禄年間を境に、それ以降、無年号文書が多くを占めている。その数は119通（その他・不明13通は除外）に及び、文書群全体のほぼ40%を占める多数にのぼっている。目録作成にあたっては、それらの年代比定作業に多くの労力を要した。

【研究史上的価値】

この三宮岡本文書は、概ね南北朝時代の14世紀半ばから16世紀の、三宮社と岡本氏の所領があった那賀郡小石見郷を中心とした石央地域在地の状況を、現在のところもっとも詳しく知ることができる史料である。1980年代半ば、本史料は、それまでほぼ空白といって過言ではなかった中世の那賀郡小石見郷の土豪岡本氏および同郷地域史を解明する手がかりとして浮上してきた⁽²⁾。1990年代になると、それまでほとんど知られていなかった16世紀第2四半期以降の那賀郡の国人領主福屋氏の興亡をはじめ、石見銀山開発期の石央地域とりわけ同沿岸地域における政治史の変動を解明する手がかりが、この文書群から得られることがわかってきた⁽³⁾。このように、研究史上不明であった16世紀における石央地域の領有関係や政治史を解明する手がかりを含んでいることに改めて注目されるようになってきた。また、2000年頃以降は、戦国期の家中論・在地領主論の対象として岡本氏がとりあげられるようになった⁽⁴⁾。さらに、16世紀第3・4四半期の天正年間の史料群を中心に、戦国大名毛利氏・吉川氏配下となった岡本氏の活動領域の拡大とともに石見地域史のみならず中国地方東部戦国史の史料としても用いられ始めるなど、この史料の研究上の利用可能性は拡大しつつある⁽⁵⁾。

しかし、顧みると、浜田を中心とした石央中世史の全体像を把握することはいまだに課題であるといってよい。

本文書群の利用可能性に即していえば、南北朝期から室町時代にかけては、戦国期に滅亡した国人領主三隅氏・福屋氏と関係する史料も多い。そのため、両国人の家伝史料の喪失により、いまだに当該期の三宮岡本文書には内容不明なことも多く、検討・解明すべき余地が多く残されている。

以下、年号が明確なものがほとんどを占める永禄期までの史料群の前半部分と、無年号文書が大半を占める元亀・天正期以降の後半部分にわけて、目録の概要と、配列の要点について述べておきたい。

2、史料群前半の概要－永禄5年までの史料－

【三宮社ならびに岡本氏の初見】

本文書群中の石見三宮社に関する初出については、南北朝期の康永3年（1344）には黒河大明神の名が見え、観応3年（1352）5月5日の三隅重兼三宮神領山境定書（目録9・10）の頃から三宮の名称が見え始める。以後、観応から正平年間にかけて、三隅重兼の神領等の宛行状がみられ「黒河三宮大明神」などの呼称がみられるようになる。このことからは、黒河大明神を前提とする石見三宮社の形成過程を窺うことができる。また、この南北朝の頃には小石見郷付近が三隅氏の支配下にあったことも想定される。一方、岡本一族の名は、永享12年（1440）頃から宝徳元年（1449）（目録28～33）の頃に、譲状・証状・安堵状等に見え始める。

【小石見郷と近隣在地領主関係史料】

その後、宝徳元年（1449）（目録33）から享禄5年（1532）（目録100）の約八十年にわたって、国人領主三隅氏関係の岡本氏に対する安堵状・所領打渡などが見えるので、享禄末年ころまで、小石見郷付近には、西の那賀郡三隅郷に拠点を置いた国人領主三隅氏の支配が及んでいたことを知ることができる⁽⁶⁾。

しかし、天文年間に入ると、三隅氏関係文書に替わって那賀郡山間部福屋郷（本明山麓福田付近）の国人領主福屋氏の関係文書が見え始める。その初見は、天文4年（1535）3月6日の重富兼里打渡状（目録103・104）からで、那賀郡山間部の重富郷の土豪で、福屋氏奉行人クラスである重富氏の所領新寄進文書からである。そして、天文6年（1537）12月の福屋正兼一字書出（目録106）からは、ほぼこの時期に、岡本弥八郎兼祐が福屋氏の配下に組み込まれたことがわかる。それ以後、福屋氏が滅亡する永禄5年（1562）3月直前まで、岡本氏は福屋氏の配下にあった。

岡本氏は、永禄5年2月15日の岡本兼祐・同兼貞連署起請文写（目録165）、同2月24日の吉川元春安堵状写（目録166）、同2月26日の吉川元春・毛利元就・同隆元連署寄進状写（目録167）を境に毛利氏に降り、以後、吉川氏、ついで旧福屋領を概ね引き継いだ繁澤氏の配下として存続することとなった。

3、史料群後半の概要と年代比定－永禄5年以降－

この無年号文書群のほとんどは、岡本氏が、永禄5年（1562）2月、それまで属していた福屋氏の滅亡直前に、毛利氏・吉川氏に降って以降のものである。その後の毛利氏の領国下、安芸吉川氏・仁保氏・繁澤氏に属した永禄5年以降から天正年間、そして近世初頭にいたる文書群である。この時期の文書は石央地域が主に吉川氏らの支配下にあった時期のもので、岡本氏が従った吉川氏一族の発給文書が多くを占める。これ以後は、吉川元春・仁保元棟（繁澤元氏・繁澤立節）・吉川元長・吉川広家（経言）らを発信人とする文書がその中心を占める。また、先述のとおり、これらの発給文書の多くは無年号文書であり、その年代比定が大きな課題となつた⁽⁷⁾。

永禄5年から天正11年（1583）頃までは、吉川元春発給文書が多くを占める。また、毛利氏が豊臣政権傘下に入った天正11年を境に、小石見郷の支配が吉川元春から事実上仁保元棟に移ったとみられ、以後、仁保元棟（繁澤元氏）発給文書がその多くを占めることになる。

この時期の文書の年代比定にあたって、判断の手がかりとなったのは、まずおおまかなところでは、吉川元春没年、改名が頻繁であった仁保元棟一繁澤元棟一繁澤元氏一繁澤立節の改名時期、吉川元長没と吉川経言の吉川

家家督相続および経言の広家への改名時期などである。また、岡本氏一族の動きでは、岡本大蔵丞兼貞（春徳）の伯耆から美作小田草在番の時期（天正8－9年）をはじめ、家督相続・官途名などを手がかりとすることができる。以下、概要を述べる。

【吉川氏一族関係】

三宮岡本文書のうち、吉川元春発信の文書で年代が明確なものは永禄5年（1562）2月（目録166）から天正12年（1584）3月（目録227）の間にみられるが、元春没が天正14年（1586）11月であるので、元春関係の無年号文書は、永禄5年から天正14年の間を想定した。

元春の跡目である吉川元長発信の文書は、その没が天正15年（1587）6月5日であるので、これ以前のものである。この元長没直後に、弟吉川経言が吉川氏の家督を継ぎ⁽⁸⁾、同9月2日には広家と改名している⁽⁹⁾。従って、経言名と広家名の境目は天正15年9月となる。

吉川経言発給文書で最も早い時期のものは、年代が明らかなものでは、天正6年（1578）正月4日、吉川経言一字書出（『岩国藩中諸家古文書纂』御書写、長和平兵衛）である。このため、三宮岡本文書中の経言発信文書も、天正6年正月から、同人が広家と改名した天正15年9月ころまでのものと推定した。従って、吉川広家発給文書は、それ以後のものということになる。広家は元和3年（1617）から如兼と名乗るようになるが、岡本文書には如兼の署判がみられないで、広家発給無年号文書は最大幅を想定しても元和3年以前までということになる。

仁保元棟関係文書に関しては、「天正5年（1577）」2月2日、吉川元長・元棟連署状（『吉川家文書』1246）頃が初見とみられる。三宮岡本文書でも、仮にこれを上限として用いた。同文書中で年代が明確なものとして現れるのは、天正11年（1583）2月6日の仁保元棟安堵状写（目録225）である。この文書では、岡本美作守（兼祐）・宗四郎・宮竹丸に三宮神領・口役・山河が安堵されている。同状には「三宮御神領并口役・山河、弥々向後相違不可有御座候」とあり、その内容からは、この時期に、元棟が吉川元春から小石見郷付近の知行権を継承し、それに基づいて岡本氏に対しおこなった安堵であったと推察される。従って、岡本氏あて同人の発給文書の多くもこれ以降のものである可能性が高い。

その後、吉川元長没（天正15年6月5日）直後のものと考えられる（天正15年）6月17日の繁澤元棟書状（『吉川家文書』別集28）「元長様御事、何ケ度申候も不能是非候、然者、兼々万徳院被立置之御廟所ニ被成御定候之」の頃が、仁保から繁澤への名字を改めた時期とみられる。その後、元棟から元氏へと改名するが⁽¹⁰⁾、仁保元棟から繁澤元棟、そして繁澤元氏へと変遷するのはこの天正15年6月から9月の時期である。これを境に以後の文書は（繁澤）元氏の名で発給されたと判断した。また、同人は慶長6年（1601）頃から繁澤立節を名乗るようになるので⁽¹¹⁾、立節の名で発給された文書は、概ね関ヶ原の戦い以降のものと考えた。

【岡本氏一族関係】

先述のとおり、永禄5年（1562）2月、岡本兼祐とその子兼貞（弥八郎）はそれまで属していた那賀郡の国人領主福屋氏のもとを離れ、毛利氏に服属した（永禄5年2月15日、岡本兼祐・同兼貞連署起請文写〈目録165〉、永禄5年2月24日、吉川元春安堵状写〈目録166〉）。同年5月、岡本弥八郎（兼貞）は吉川元春から春の一字を与えられ春徳と名乗る（永禄5年5月11日吉川元春一字書出写〈目録168〉）。この永禄5年2月から5月を境に、吉川元春発給文書が多くみられるようになる。

天正4年（1576）正月には、それまで兼祐が保持していた大蔵丞の官途を、弥八郎が継承することになった（天正4年正月10日、吉川元春官途書出写〈目録186〉）。これ以後、兼祐は美作守の受領名を用いることになったと考えられる。（天正4年）正月10日、吉川元春書状写（目録187）に、「其方（兼祐）受領之儀、如先例可有受領候、弥八郎事者任大蔵丞候」からそれが窺える。また、これを境に吉川氏一族の発給文書は、岡本弥八郎あてから岡本大蔵丞（春徳）あてへと移り、大蔵丞あて文書が多数を占めるようになる。

織田氏の中国侵攻に対し、吉川氏が中国地方東部で軍事行動を展開していた、天正7年（1579）から9年（1581）頃の時期、岡本氏が吉川氏の配下にあってこの方面で活動しているが、同時期、その関係史料がほとんどを占めている⁽¹²⁾。大蔵丞春徳（兼貞）は、天正7年以降、美作小田草在番を中心に伯耆・因幡方面で従軍し、天正9年の鳥取城の戦いで戦没したとされる。（天正3年以前）6月20日、岡本春徳書状写（目録182）の包紙に春徳は「因州鳥取城ニテ打死ノ人ナリ」とあり、これ以降、大蔵丞あての文書も見えなくなる。

その跡を受けるように、天正11年（1583）2月6日、仁保元棟安堵状写（目録225）で、先述のとおり、岡本美作守（兼祐）・宗四郎・宮竹丸に三宮神領・口役・山河が安堵されている。同状には「勿論宮竹丸殿御事者大蔵丞殿御手続之儀候之間、弥以申談候」とあり、すでに故大蔵丞から宮竹丸に対する「手続」（手継カ）があったことがわかるが、この文面からは家督継承はいまだ完結していなかった様子が読める。その後、天正12年（1584）3月6日、吉川元春官途書出写（目録227）において、岡本神次郎が宗左衛門（春正）と名乗ることになるところから、この時期、宮竹丸とは別人の宗左衛門が家督を継承した可能性、もしくは家督継承予定者の地位を確実にしたものと推察される。⁽¹³⁾

さて、大蔵丞春徳（兼貞）の先代である岡本美作守（兼祐）を受信人とする文書はほぼ無年号文書である（目録225以降243所出）。発信者は吉川経言や仁保元棟であることから、両者の文書が見られ始める天正5・6年（1577・8）頃から（先述）、両者の改名時期である天正15年（1587）9月以前のものと推定される。内容は、ほとんどが音信と贈答の礼状であることから、これらの文書は、兼祐が家督から引退した後の立場でやりとりされたものとみられる。これらのことから、美作守兼祐は、大蔵丞春徳（兼貞）戦没後、6年ばかり後の天正15年頃に死没したとみられる。

岡本宗左衛門（春正）は、先述のとおり天正12年（1584）3月頃に少なくとも家督継承予定者の地位を確実にしたと推察されるが（目録227）、同人宛文書には年号記載がないものがほとんどである。一方、吉川広家・繁澤元氏を発信人とする文書が数多く、それらが時期的に上限であることから、宗左衛門（春正）あて文書群は、広家・元氏両人の改名時期である天正15年（1587）7月から9月以降のものと考えられる。これはちょうど美作守兼祐あての文書が見られなくなるのとほぼ同時期である。

宗左衛門宛の文書は、長期にわたって多く残されているが、繁澤元氏が立節を名乗って後、関ヶ原の戦い後、慶長年間まで多くみられる⁽¹⁴⁾。このうち、立節署判の文書は慶長6年（1601）8月頃以降の文書と考えられるので（先述）、元氏署判の文書はそれ以前のものであると考えられる。

おわりに－残された課題－

以上、三宮岡本文書の概要と、無年号文書の年代比定の指標について述べた。しかし、いくつかの課題が残されている。

南北朝期から室町時代にかけて岡本氏の名が見える以前の文書群の来歴やそれらが岡本氏に流入した経緯などについては現在のところ明らかにできていない。天正期以降の無年号文書の年代比定については、おおまかなところでは既述のとおりであって、現状できる限りの検討は行ったが、率直にいえば、内容的に手がかりが乏しく年代的に大きく幅をとらざるをえない文書も多かった。例えば、岡本氏から吉川氏・繁澤氏への贈答・礼状関係、三宮社への奉納関係史料に関しては細かく年代を詰める手がかりを得ることは困難であった。また、永禄末から天正期の織田氏の中国進出に伴う美作・備前・伯耆・因幡の政治史の詳細な検討如何によっては、さらにこの時期の文書の年代を絞り込める余地があると思われる。

このように、いくつかの課題を残してはいるが、編年的に作成した目録を仮説的ながら提示したいと思う。

〈註〉

- (1) 県立図書館謄写本（「那賀郡石見村 岡本文書」卷之壱〈第一六三八号ノ壱〉、「同」卷之弐〈第一六三八号ノ弐〉「大中臣 岡本系譜」島根県内務部島根県史編纂係）。
- (2) 三宮岡本文書を用いて、岡本氏や小石見郷に関して論じたものに、松村建「中世後期の村落と土豪－石見国岡本氏を中心にして－」（『山陰史談』23、1988年）がある。
- (3) 佐伯徳哉「戦国期石見における在地領主支配と地域経済秩序－（益田氏庶流）福屋氏の発展・滅亡過程を中心に－」（『ヒストリア』135号、1992年、同『中世出雲と国家的支配』法蔵館、2014再録）。
- (4) 菊池浩幸「戦国期における在地領主と地域社会－石見国小石見郷を事例に－」（池享編『室町戦国期の社会構造』吉川弘文館、2010年）など、玉井絵里香「中近世移行期の土豪と在地社会－石見国小石見郷を事例として－」（『史学研究』275号、2012年）などがある。
- (5) 『新鳥取県史』古代・中世1古文書編 2015年。
- (6) 三隅氏関係の年代比定に関しては、「島根県浜田市三隅歴史民俗資料館寄託『三隅二宮神社文書』中世分の翻刻と紹介」（『東京大学史料編纂所研究紀要』26号、2016年）を参考にした。
- (7) 吉川元春関係文書の年代比定には、木村信幸「吉川元春の花押変更について」（長谷川博史編『戦国大名毛利氏の地域支配に関する研究』（2000－2002年度科学研究費補助金基盤研究〈C〉〈2〉研究成果報告集、2003年）などを参考として用いた。このほか、東京大学史料編纂所古文書ユニオンカタログなどを参照。
- (8) 「天正15年」6月5日、毛利輝元書状『吉川家文書』677・678、天正15年6月6日、宍道政慶起請文（『吉川家文書』680・681）など。
- (9) 天正15年9月2日、毛利輝元自筆一字状（『吉川家文書』676）。
- (10) （天正15年）9月25日、繁澤元氏書状（野坂文書）。
- (11) 年紀が明確なものとしては、慶長6年8月1日、繁澤立節・元景連署寄進状写（吉川家中並寺社文書）の頃から。
- (12) なお、このことと関係するものとみられるものに、井上春佳署判文書がある。同文書は、年紀が明瞭なものは、天正9年7月27日、井上春佳書状写（『石見吉川家文書』藤原吉川什書）、天正9年6月19日、吉川家奉行人連署奉書写（『吉川家中並寺社文書』野上家ノ御書並樋口家御書）、二宮春澄署判文書は同じく、天正8年12月8日、吉川家奉行人連署奉書（『肥塚文書』）など天正8・9年ころに見られる。
- (13) なお、『大中臣岡本系譜』（島根県立図書館蔵 謄写本）にはこの時、吉川元春から「春」の一字を賜ったとしている。
- (14) 『大中臣岡本系譜』（島根県立図書館蔵 謄写本）では、寛永15年（1638）戊寅正月28日没と記される。

島根県古代文化センターでテーマ別研究事業として実施した「石見の中世領主の盛衰と東アジア海域世界」（2014～18年度）と、東京大学史料編纂所の2014・15年度の一般共同研究事業「中世石見領主御神本一族関係文書の調査・研究」との共同研究の中の一環として石見三宮岡本文書の調査研究を実施したが、本目録は、そこで得られた成果に、さらに加筆修正を加えて作成したものである。

	和暦年月日	西暦	史料名	写真帳史料編纂所写真帳『旧島根県史編纂史料中世筆写編』巻(請求番号)丁ほか〈〉は活字本	備考(人名・地名など)
1	文治5年3月26日	1189	いねくま阿弥陀仏譲状案写<偽文書>	四 (6171.73-48-4) 2丁	はさまの二郎太郎、八郎二郎、いねくまあみたふ
2	元亨3年2月22日	1323	某充行状写<要検討>	四 (6171.73-48-4) 3丁	上山十郎跡、源次郎
3	元徳2年4月10日	1330	某充行状写<要検討>	四 (6171.73-48-4) 4丁	上山、源次郎入道法仏
4	延元4年3月29日	1339	さいたう間人名預り状写	四 (6171.73-48-4) 5丁 <『南北朝遺文』1 - 851>	河内、まうとミやう(石見那賀郡)、せい三、さいたう
5	興国3年12月日	1342	足利直冬(?)袖判宛行状写	四 (6171.73-48-4) 6丁 <『南北朝遺文』2 - 1222・大社町史2613(千家古文書写丙)>	山頭、源三、道祖徳、山頭五郎次郎
6	康永2年正月日	1343	西志譲状写	四 (6171.73-48-4) 7丁 <『南北朝遺文』2 - 1225>	吉高、さいま、さいとく(道祖徳)、西志
7	康永3年閏2月6日	1344	平時恒譲状写	四 (6171.73-48-4) 8丁 <『南北朝遺文』2 - 1331>	黒河大明神、河内、山頭五郎二郎、めうあ(妙阿?)、五藤二、平時恒
8	觀応3年閏2月15日	1352	五とう二譲状写	四 (6171.73-48-4) 9丁 <『南北朝遺文』3 - 2224>	さいまつ、五とう二
9	觀応3年5月5日	1352	三隅重兼三宮神領山境定書案写	四 (6171.73-48-4) 10丁 <『南北朝遺文』3 - 2271>	三宮御神領、井木名、重兼
10	觀応3年5月5日	1352	三隅重兼堺定帳写	四 (6171.73-48-4) 11 - 12丁 <『南北朝遺文』3 - 2270>	重兼
11	正平9年12月25日	1354	三隅重兼宛行状案写	四 (6171.73-48-4) 13丁 <『南北朝遺文』3 - 2690>	石見国黒河三宮、河内、神主九郎兵衛尉、重兼
12	正平9年12月25日	1354	三隅重兼宛行状案写	四 (6171.73-48-4) 14丁 <『南北朝遺文』3 - 2690>	石見国黒河三宮、河内、神主九郎兵衛尉、重兼
13	正平9年12月25日	1354	三隅重兼宛行状写	四 (6171.73-48-4) 15丁	石見国黒河三宮、河内、神主九郎兵衛尉、重兼
14	正平11年12月5日	1356	足利直冬宛行状写	四 (6171.73-48-4) 16丁 <『南北朝遺文』3 - 2859>	墨加(黒河)大明神、山頭職、二郎五郎
15	正平11年12月5日	1356	三隅重兼宛行状案写	四 (6171.73-48-4) 17丁	墨加(黒河)大明神、山頭職、二郎五郎、重兼
16	正平11年12月5日	1356	三隅重兼宛行状写	四 (6171.73-48-4) 18丁	墨加(黒河)大明神、山頭職、二郎五郎、重兼
17	正平13年11月25日	1358	黒河太郎三郎兵衛譲状写	四 (6171.73-48-4) 19丁 <『南北朝遺文』3 - 2985>	やないかつほ、くろか(黒河)の太郎三郎兵、河内、まつほうし
18	正平16年2月9日	1361	さいあみ渡状写	四 (6171.73-48-4) 20丁 <『南北朝遺文』4 - 3098>	二郎五郎、さいあみ
19	永和4年12月3日	1378	しんし作所当注文案	四 (6171.73-48-4) 21丁 <『南北朝遺文』5 - 4463>	にくれ谷、きみ、うしろの(後野)、かうあみ、上けた名、にや名、大きこ名(大迫名)、はさま二郎三郎、をいこ名、八郎二郎名、みつかみ、三郎五郎、まこ大夫、山中、たかはた、七四郎、船はやし、さいあみ、なめら谷(名目良谷)、あけ山(上ヶ山)
20	康応2年2月25日	1390	某袖判書下案写	四 (6171.73-48-4) 23丁 <『南北朝遺文』6 - 5247>	すきやま、小石見、山頭
21	明徳5年正月22日	1394	行光宛行状写	四 (6171.73-48-4) 24丁 <『南北朝遺文』6 - 5585>	谷木山九郎三郎名、山頭三郎五郎、公文行光
22	応永6年5月14日	1399	信綱安堵状写	四 (6171.73-48-4) 25丁	信綱、山頭
23	応永12年10月16日	1405	黒賀太郎五郎契約状写	四 (6171.73-48-4) 26丁	山頭殿、黒賀の太郎五郎
24	応永16年8月18日	1409	たうまん書状并道春裏書写	四 (6171.73-48-4) 27丁	石見山頭、五郎、六へ、たうまん、道春

25	永享4年3月17日	1432	さい道名不作注文写	四 (6171.73-48-4) 28丁	池田名、かきの本、さい道名、九郎太名、牛尾加藤衛門弘世、佐々木豊前貞世、平野五郎右衛門宗経、河内、四郎右衛門
26	永享6年8月30日	1434	さいとう名所当注文案写	四 (6171.73-48-4) 29丁	山根但馬守信久、小野近江守盛連、弥重北道儀貫、岡民部兼弘
27	永享12年2月22日	1440	鳥居祝次第写	四 (6171.73-48-4) 30丁	山頭、(岡本)道林
28	(応永20－永享12年頃) 8月8日	1413～1440頃	三隅信兼書状写断簡	五 (6171.73-48-5) 166丁	井村、小石見、辻堂、三隅信兼、□□□□□(岡本宗左衛門尉力)
29	文安元年6月19日	1444	岡本道林証状写	四 (6171.73-48-4) 31丁	小石見郷、岡本沙弥道林
30	文安元年6月20日	1444	岡本秀貞譲状写	四 (6171.73-48-4) 32丁	若宮殿、三宮、道林、おかもと五郎四郎(秀貞)
31	文安元年6月20日	1444	岡本宗貞契約状写	四 (6171.73-48-4) 34丁	若宮、三宮、岡本五郎四郎(秀貞)、岡本次郎左衛門尉宗貞
32	文安5年9月15日	1448	盛次契約状写	四 (6171.73-48-4) 35丁	四郎兵衛、小石見大工新衛門、盛次
33	宝徳元年閏10月15日	1449	三隅信忠安堵状写	四 (6171.73-48-4) 36丁	山頭、岡本五郎四郎(秀貞)、信忠
34	享徳2年11月1日	1453	某袖判安堵状写	四 (6171.73-48-4) 37丁	小石見吉高、むしり谷、吉光殿、雅楽助、大工新左衛門
35	康正元年12月26日	1455	三隅豊信宛行状写	四 (6171.73-48-4) 38丁	小石見郷、せんそく名、村きみ名、岡本出雲守(宗貞)、豊信
36	康正3年8月12日	1457	下里山三郎九郎誓約状写	四 (6171.73-48-4) 39丁	岡本四郎左衛門(秀貞)、三郎九郎
37	長禄3年5月13日	1459	三隅豊信安堵状案写	四 (6171.73-48-4) 40丁	黒河三宮大明神、河内、岡本四郎左衛門尉秀貞
38	応仁元年7月16日	1467	三隅豊信安堵状写	四 (6171.73-48-4) 41丁	小石見郷、千足名、岡本出雲守宗貞、岡本鈴法師(信家)、木束、豊信
39	応仁2年9月20日	1468	二宮三宮物忌令写	四 (6171.73-48-4) 42丁	二宮、三宮
40	応仁3年正月2日	1469	三隅豊信安堵状写	四 (6171.73-48-4) 43丁	岡本出雲守(宗貞)一跡、岡本鈴法師丸(信家)、豊信
41	応仁3年正月2日	1469	三隅豊信安堵状写	四 (6171.73-48-4) 44丁	小石見、木口、岡本出雲守宗貞、豊信
42	文明3年7月8日	1471	三隅貞信安堵状案写	四 (6171.73-48-4) 45丁	小石見郷、野原、三隅長信、長寿庵、安貞、横樹次郎左衛門(安貞カ)、貞信
43	文明3年11月12日	1471	信厚安堵状写	四 (6171.73-48-4) 46丁	山頭、岡本四郎左衛門(秀貞)信厚
44	文明4年2月28日	1472	岡本秀定契約状写	四 (6171.73-48-4) 47丁	小石見郷、吉高、伊木、うしろ谷、太郎四郎、岡本丹後守秀定
45	文明7年4月15日	1475	兼幸宛行状写	四 (6171.73-48-4) 48丁	八幡神田、鍛冶名与一次郎、兼幸
46	文明10年2月2日	1478	室屋谷左衛門太郎避状写	四 (6171.73-48-4) 49丁	室屋谷、左衛門太郎、九郎右衛門、みやうちん
47	文明11年12月18日	1479	兼幸安堵状写	四 (6171.73-48-4) 50丁	伊甘郷宇野村、兼幸、くほの小太郎
48	文明12年10月26日	1480	三隅貞信安堵状写	四 (6171.73-48-4) 51丁	那賀郡小石見郷、岡本出雲守宗定、岡本次郎五郎(信家)、貞信
49	文明12年10月26日	1480	岡本秀定知行注文写	四 (6171.73-48-4) 51丁	岡本出雲守(宗貞)、大かいち名、中大かいち名、竹さこしやう大ゆな名、千足名、村きみ名、辻堂名、あけ山(上ヶ山)名、木口、木束、若宮、ほそ谷(細谷)名、三隅貞信、岡本次郎五郎(信家)
50	文明14年2月10日	1482	江上庵梵怡契約状写	四 (6171.73-48-4) 53丁	江上庵、岡本丹後守(秀定)、石頭原、江上住持梵怡

51	文明14年12月26日	1482	岡本秀定預ヶ状写	四 (6171.73-48-4) 54丁	三宮、小石見郷、吉高、伊木、吉光、二郎三郎、秀定
52	文明15年2月11日	1483	岡本秀定預ヶ状案写	四 (6171.73-48-4) 55丁	小石見郷、三宮、吉高、伊木名、吉光、井黒、七郎左衛門、秀定
53	文明15年3月20日	1483	信具安堵状写	四 (6171.73-48-4) 56丁	小石見郷、吉光、山頭、岡本丹後守(秀定)、信具
54	文明17年閏3月7日	1485	黒河八郎兵衛田地壳券写	四 (6171.73-48-4) 57丁	黒河、三宮、太郎大夫名、大中臣秀定、岡本丹後守(秀定)、八郎兵衛
55	長享2年9月10日	1488	来福寺定賢屋敷壳券写	四 (6171.73-48-4) 58丁	小石見、来福寺、河内、高野五郎兵衛、東方与五郎、東方二郎三郎、岡本丹後守(秀定)、高野寺
56	長享3年7月19日	1489	岡本貞識置文案写	四 (6171.73-48-4) 59丁	三郎右衛門、民部、河野太郎左衛門、おかもと源太郎貞識
57	延徳2年2月23日	1490	岡本信家・同貞盛連署境注文写	四 (6171.73-48-4) 60丁	大谷、辻堂、岡本信家、岡本貞盛
58	延徳2年2月23日	1490	岡本信家・同貞盛連署境定書写(前欠)	四 (6171.73-48-4) 62丁	信家、岡本貞盛
59	延徳2年2月28日	1490	三隅貞信安堵状案写	四 (6171.73-48-4) 63丁	那賀郡小石見郷、潟庭、横樹二郎左衛門尉、横樹太郎二郎、三浦盛定、三浦民部丞、貞信
60	延徳2年12月14日	1490	とうせん入道・同弥五郎連署畠地壳券写	四 (6171.73-48-4) 64丁	崩岩、三宮、岡本丹後守秀定、乙若殿、とうせん入道、弥五郎
61	延徳4年3月6日	1492	横樹安貞申状案写	四 (6171.73-48-4) 65丁	那賀郡小石見郷、潟庭、太郎次郎、筑州様、三浦盛定、亀清寺、三浦民部、横樹二郎左衛門尉安貞
62	延徳4年7月22日	1492	西定保・こつとう千代衛連署田地壳券案写	四 (6171.73-48-4) 66丁	こつとう屋敷、吉高、西与三左衛門定保、岡本丹後守(秀定)、こつとう千代衛
63	延徳4年12月11日	1492	高野次郎九郎畠地壳券写	四 (6171.73-48-4) 67丁	岡本丹後守(秀定)、高野次郎九郎
64	明応元年9月20日	1492	源四郎契約状写	四 (6171.73-48-4) 68丁	岡本宗左衛門(貞盛)、源四郎
65	明応元年10月23日	1492	つもとり女・八郎右衛門連署屋敷地壳券写并門屋敷兵衛三郎証判写	四 (6171.73-48-4) 69丁	岡本源四郎、なめり谷(名目良谷)、つもとり女、八郎右衛門、門屋敷兵衛三郎
66	明応4年3月16日	1495	三浦盛定打渡状写	四 (6171.73-48-4) 70丁	小石見、池田名、岡本宗左衛門尉(貞盛)、(三浦加賀守)盛定
67	明応4年3月16日	1495	三浦盛定打渡状案写	四 (6171.73-48-4) 71丁	小石見、池田名、岡本宗左衛門尉(貞盛)、三浦加賀守盛定
68	明応5年3月24日	1496	岡本貞盛安堵状写	四 (6171.73-48-4) 72丁	りゅうま(両間)孫四郎名、左衛門太郎、加賀殿、左衛門三郎、岡本宗左衛門尉貞盛
69	明応6年7月2日	1497	某安堵状案写	四 (6171.73-48-4) 73丁	三隅、香積寺殿(大内義弘)、永安次郎興兼
70	明応6年8月2日	1497	西尾兼景安堵状写	四 (6171.73-48-4) 74丁	小石見、三宮、山頭、西尾肥前守兼景、岡本宗左衛門尉(貞盛)
71	明応6年8月3日	1497	東条盛継免許添状写	四 (6171.73-48-4) 75丁	小石見、三宮、山頭、西尾肥前守(兼景)、東条隱岐守盛継、岡本宗左衛門尉(貞盛)
72	明応7年12月1日	1498	三隅興信袖判安堵状写	四 (6171.73-48-4) 76丁	大かいち名、中原、三浦左馬助春俊、岡本次郎左衛門(信家)
73	明応8年9月23日	1499	三隅興信安堵状写	四 (6171.73-48-4) 77丁	那賀郡小石見郷、政所名、かさから名、水取名、石見堂、岡本次郎左衛門尉(信家)

74	明応8年9月23日	1499	三隅興信安堵状写	四 (6171.73-48-4) 78丁	那賀郡小石見郷、金口名、湊津口、岡本次郎左衛門尉（信家）
75	明応8年10月20日	1499	三隅興信安堵状写	四 (6171.73-48-4) 79丁	那賀郡小石見郷、岡本次郎左衛門尉信家、岡本出雲守宗定
76	明応8年10月20日	1499	岡本宗定知行注文写	四 (6171.73-48-4) 79-80丁	大かいち名、中大かいち名、竹迫しやう大ゆな名、せんそく（千足）名、むら（村）きみ名、つし（辻）堂名、あけ山（上ヶ山）名、木口、木束、若宮、ほそ谷（細谷）名、岡本次郎左衛門尉（信家）、興信（三隅興信）
77	明応8年11月4日	1499	小坂信房打渡状案写	四 (6171.73-48-4) 81丁	三宮、三隅興信、小坂民部大輔信房、岡本宗左衛門尉（貞盛）、岡本神四郎
78	明応8年11月4日	1499	小坂信房打渡状写	四 (6171.73-48-4) 82丁	三宮、三隅興信、小坂民部大輔信房、岡本宗左衛門尉（貞盛）
79	明応9年9月24日	1500	小坂信房打渡状写	四 (6171.73-48-4) 83丁	三宮、大はたけ名、小坂民部大輔信房、岡本美作守（貞盛）
80	明応9年9月24日	1500	小坂信房打渡状案写	四 (6171.73-48-4) 84丁	三宮、大はたけ名、小坂民部大輔信房、岡本美作守（貞盛）
81	永正元年11月21日	1504	正祐申状案写	四 (6171.73-48-4) 85丁	池田名、洞泉寺、具方様、岡本美作守（貞盛）、正祐
82	永正6年8月3日	1509	三隅興兼安堵状写	四 (6171.73-48-4) 86丁	那賀郡、和木名、長田、嘉久志、宇屋賀、松原名、門（嘉戸ヵ）、江津、岡本次郎左衛門尉（信家）、津、三隅、岡本
83	永正6年8月24日	1509	三隅興兼安堵状写	四 (6171.73-48-4) 87丁	那賀郡小石見郷、岡本次郎四郎信光、岡本次郎左衛門尉信家
84	永正6年8月24日	1509	岡本信家知行注文写	四 (6171.73-48-4) 88-89丁	辻堂名、金口名、大かいち名、中大かいち名、竹迫しやう大名、千足名、村きみ名、あけ山（上ヶ山）名、木口、木束、若宮、ほそ谷（細谷）名、府中藤井分、政所名、かきから名、水取名、石御堂名、内、猪村平三名、江津、嘉久志、長田、和木名、宇屋賀、松原名、門（嘉戸？）名、岡本次郎四郎（信光）、興兼（三隅興兼）
85	永正7年2月8日	1510	三浦盛定書下写	四 (6171.73-48-4) 90丁	江要害、須子、三宮、三隅興貞、岡本宗左衛門尉（兼貞）
86	永正8年5月28日	1511	東条房貞打渡状写	四 (6171.73-48-4) 91丁	たのかみ、ひのめ、川なみ、久代、ひがし、東条又六房貞、岡本宗左衛門尉（兼貞）
87	永正8年10月日	1511	三浦彦六郎打渡状案写	四 (6171.73-48-4) 92丁	小石見大工、府中弥重分、三浦彦六郎
88	永正9年3月29日	1512	奥里惣百姓中預ヶ状写	四 (6171.73-48-4) 93丁-94丁	かみ原若田、おちの九郎、四郎左衛門、奥里惣百姓中、水口四郎さへもん（四郎左衛門）
89	永正9年8月28日	1512	(三隅)慶兼感状写	四 (6171.73-48-4) 95丁	岡本次郎四郎（信光）、慶兼
90	永正14年8月23日	1517	(三隅)慶兼起請文写	四 (6171.73-48-4) 96丁	三隅、中務少輔殿、長寿丸、府中、小石見、三宮大明神、岡本次郎左衛門尉（信家）、慶兼
91	永正14年8月23日	1517	(三隅)慶兼起請文案写	四 (6171.73-48-4) 97丁	三隅、中務少輔殿、長寿丸、府中、小石見、三宮大明神、岡本宗左衛門（兼貞）、慶兼
92	永正14年9月9日	1517	岡本氏領知行注文写	四 (6171.73-48-4) 98丁	府中、福原越前守兼輔、高杉平兵衛尉兼親、野田左馬助兼誠、岡本宗左衛門尉（兼貞）

93	永正16年8月8日	1519	沙弥士頭奉書写	四 (6171.73-48-4) 99丁	小石見郷、水上、済道名、山頭四郎左衛門尉、大殿富部殿、沙弥士頭、山頭殿
94	大永5年4月18日	1525	三浦兼佐打渡状案写	四 (6171.73-48-4) 100丁	田尻名、高岸名、三浦弾正忠兼佐、岡本弥太郎(勝貞)
95	大永8年5月23日	1528	東条房貞打渡状写	四 (6171.73-48-4) 101丁	千代松、国分井のしり、千代延、ちちさき、尼子、青龍寺出張、東条玄蕃亮房貞、岡本弥太郎(勝貞)
96	享禄2年2月12日	1529	田中玉泉契約状案写	四 (6171.73-48-4) 105丁	松法師、三浦伯耆守、多陀寺、万寿寺、田中出雲入道玉泉、岡本左衛門尉(盛貞・兼貞)
97	享禄2年3月24日	1529	田中玉泉契約状案写	四 (6171.73-48-4) 102丁	松法師丸、多陀寺、万寿寺、岡本左衛門尉(盛貞・兼貞)
98	享禄4年8月22日	1531	三浦兼定・同兼佐連署打渡状案写	四 (6171.73-48-4) 103丁	金口屋敷、もりの上くほ田、野地屋敷、大へいの小田、三浦能登守兼定、三浦若狭守兼佐、肥塚四郎左衛門尉
99	享禄5年8月23日	1532	三隅興兼書下案写	四 (6171.73-48-4) 104丁	万寿寺、田中出雲入道(玉泉)、盛貞、松法師、岡本左衛門尉(盛貞・兼貞)
100	享禄5年8月23日	1532	三隅興兼書下案写	四 (6171.73-48-4) 106丁	万寿寺、田中出雲入道(玉泉)、盛貞子松法師、岡本左衛門尉(盛貞・兼貞)、興兼
101	(享禄年間か) 2月18日	1528～1532	三隅興兼誓約状写	四 (6171.73-48-4) 107丁	目代伯耆(三浦伯耆守)、郷草使、岡本出雲守(信光)、岡本左衛門尉(盛貞・兼貞)、興兼
102	(年未詳) 6月15日		三浦教定書状写	五 (6171.73-48-5) 99丁	重吉、東条肥前守、岡本宗左衛門尉(貞盛または兼貞)、三浦加賀守教定
103	天文4年3月6日	1535	重富兼里打渡状写	四 (6171.73-48-4) 110丁	三宮、桑原、多陀寺、重富次郎兵衛尉兼里、岡本左衛門尉(盛貞・兼貞)
104	天文4年3月6日	1535	重富兼里打渡状案写	四 (6171.73-48-4) 111丁	三宮、桑原、多陀寺、重富次郎兵衛尉兼里、岡本左衛門尉(盛貞・兼貞)、岡本神四郎
105	天文4年12月13日	1535	岡本源四郎誓約状写	四 (6171.73-48-4) 112丁	岡本左衛門尉(盛貞・兼貞)、桑原豊前守、岡本源四郎
106	天文6年12月18日	1537	福屋正兼一字書出写	四 (6171.73-48-4) 113丁	岡本弥八郎(兼祐)、正兼
107	天文7年12月8日	1538	岡本兼貞誓約状写	四 (6171.73-48-4) 114丁	延喜主殿、佐々木小二郎、岡本左衛門尉兼貞、肥塚右京亮(忠保)
108	天文8年2月19日	1539	大内恒持寄進状写	四 (6171.73-48-4) 115丁	石見國三宮、従五位下多々良朝臣恒持
109	天文8年2月19日	1539	大内氏奉行人連署奉書写	四 (6171.73-48-4) 116丁	石州三宮大宮司、下野守(弘中興勝)、三河守(杉興重)
110	(天文8年) 4月26日	1539	岡本兼貞書状写	五 (6171.73-48-5) 167丁	石見国那賀郡三宮、岡本、杉三河守(興重)、弘中下野守(興勝)
111	天文8年閏6月28日	1539	大内義隆受領吹奏状写	四 (6171.73-48-4) 117丁	岡本左衛門尉(兼貞)、下総守(兼貞)
112	天文10年9月17日	1541	国憲・国貞・種貞連署書状	四 (6171.73-48-4) 118丁	那賀郡小石見郷、かや名、養父渡辺次郎右衛門、沼間興国、渡辺助七郎
113	天文10年11月15日	1541	岡本氏領坪付写	四 (6171.73-48-4) 119丁	生越、宇野村、稻光民部大輔兼経、岡本豊後守、岡本弥六
114	(天文10年か) 12月12日	1541か	大内氏奉行人連署書状案写	四 (6171.73-48-4) 167丁	小石見郷、奥山十八ヶ郷、浜田、三宮、弘中隆兼、龍崎隆輔、杉宗長、沼間能登守(興國)

115	天文11年4月吉日	1542	岡本兼貞譲状写	四 (6171.73-48-4) 120-121丁	勝貞、さいとうかいち、岡本四郎左衛門、ささの原四郎兵衛、助七郎、後野、岡本源兵衛、岡本下総守兼貞、岡本弥太郎（勝貞）
116	天文12年7月26日	1543	浅井氏領坪付写	四 (6171.73-48-4) 122丁	むろや名、井頭内蔵助正公、浅井弥次郎
117	天文12年8月2日	1543	福屋正兼宛行状写	四 (6171.73-48-4) 123丁	小石見、岡本民部跡、中之原ほり田、岡本豊後守、正兼
118	天文12年8月3日	1543	岡本氏領坪付写	四 (6171.73-48-4) 124-125丁	岡本民部丞、大かいち、くとかわら、岡本掃部助、いまい通、中の原ほり田、井頭内蔵助正公、岡本豊後守
119	天文12年9月8日	1543	井頭正公奉書写	四 (6171.73-48-4) 126丁	小岩見、石竹、なかさわ（長沢）、大しちう四郎、井頭内蔵助正公
120	（天文12年カ）10月22日	1543カ	福屋正兼書状写	四 (6171.73-48-4) 139丁	小石見、大工太郎四郎、長沢、上野介
121	天文12年10月26日	1543	福屋正兼書状写	四 (6171.73-48-4) 127丁	小石見、大工太郎四郎、長沢、井頭内蔵助（正公）、正兼
122	天文13年9月11日	1544	上村兼高申状写	四 (6171.73-48-4) 128丁	小石見、岡本左衛門尉（勝貞）謀叛、岡本弥八郎（兼祐）、今岡、（福屋）正兼、上村下野守兼高
123	天文13年11月14日	1544	祇園社寄進田坪付写	四 (6171.73-48-4) 129丁	祇園、小石見、塩入、長岡、井頭内蔵助正公
124	天文13年11月14日	1544	若宮寄進田坪付写	四 (6171.73-48-4) 130丁	若宮、小石見、ほそ谷、大野か原、井頭内蔵助正公
125	天文14年2月19日	1545	井頭正公・大屋正煕連署状写	四 (6171.73-48-4) 131丁	中原、小田、こうせう庵、なかの原、井頭内蔵助正公、大屋木工助正秋、岡本豊後守
126	天文14年4月5日	1545	岡本氏領坪付写	四 (6171.73-48-4) 132丁	生越、西、大屋木工助正秋、岡本弥五郎
127	天文14年4月19日	1545	福屋正兼宛行状写	四 (6171.73-48-4) 133丁	小石見、護摩堂、慶種、正兼
128	天文14年4月19日	1545	井頭正公打渡状写	四 (6171.73-48-4) 141丁	小石見、内郷、井頭内蔵助正公、（こまか）たうけいしゆ
129	天文16年3月17日	1547	井頭正公・兼明連署書状写	四 (6171.73-48-4) 134丁	河野、井頭正公、（片山）兼明（朋カ）、岡本宗左衛門尉（兼祐）、主税助
130	天文16年5月3日	1547	（岡本）兼貞願書写	四 (6171.73-48-4) 135丁	三宮、兼貞
131	天文16年6月2日	1547	福屋正兼書状写	四 (6171.73-48-4) 136丁	河野、主税助、井頭内蔵助（正公）、岡本宗左衛門尉（兼祐）、上村下野守（兼高）、正兼
132	天文16年6月2日	1547	井頭正公書状写	四 (6171.73-48-4) 140丁	後野、主税助、河野、井頭内蔵助正公、岡本宗左衛門尉（兼祐）、上村下野守（兼高）
133	（天文19年以前）5月16日	1550以前	福屋正兼感状写	四 (6171.73-48-4) 137丁	浜田、皆合左馬亮
134	（天文19年以前）9月7日	1550以前	福屋正兼書状写	四 (6171.73-48-4) 138丁	弥五郎、岡本宗左衛門尉（兼祐）
135	天文19年3月12日	1550	船木弥七郎・長岡正長連署状写	四 (6171.73-48-4) 142丁	主税助、殿様、船木弥七郎、長岡藤次郎正長
136	天文19年12月11日	1550	福屋隆兼書下案写	四 (6171.73-48-4) 143丁	小石見、たかうふせ名、岡本宗左衛門尉（兼祐）
137	天文19年12月11日	1550	福屋隆兼書下写	四 (6171.73-48-4) 144丁	小石見、たかうふせ名、岡本宗左衛門尉（兼祐）
138	（天文19年）12月27日	1550	福屋隆兼書状写	四 (6171.73-48-4) 168丁	三宮、岡本宗左衛門（兼祐）

139	天文20年3月20日	1551	福屋隆兼安堵状写	四 (6171.73-48-4) 145丁	(重富) 兼里、小石見、東坊又五郎
140	天文20年6月5日	1551	岡本兼貞書状写	四 (6171.73-48-4) 146丁	辻堂名、岡本下総守兼貞、小坂下野守
141	天文20年9月吉日	1551	多陀寺尊行誓約状写	四 (6171.73-48-4) 147丁	三宮、千代童丸、岡本宮若丸、多陀寺新坊尊行、岡本宗左衛門尉(兼祐)
142	(天文20年) 11月4日	1551	福屋隆兼書状写	四 (6171.73-48-4) 165丁	三宮、稻光三河守、大蔵丞(兼祐)、斎藤神五郎、岡本宗左衛門尉(兼祐)
143	天文21年2月1日	1552	福屋隆兼宛行状写	四 (6171.73-48-4) 148丁	三子山城、隆兼、護摩堂
144	天文21年2月4日	1552	井頭正公・重富正俊連署奉書写	四 (6171.73-48-4) 149丁	有福、生越、正兼様、次郎、小石見、こうしやう庵、めの山、井戸(ママ)内蔵助正公、重富右京亮正俊、岡本源兵衛尉、岡本源兵衛尉
145	天文21年2月7日	1552	兼忠寄進状写	四 (6171.73-48-4) 150丁	太郎大夫名、神護庵、肥前守兼忠、岡本宗左衛門尉(兼祐)
146	天文21年7月23日	1552	福屋隆兼判物写	四 (6171.73-48-4) 151丁	長城、岡本大蔵丞(兼祐)、隆兼
147	天文21年11月21日	1552	福屋隆兼判物写	四 (6171.73-48-4) 153丁	小石見、防州山口、山口名、三子山城、岡本大蔵丞(兼祐)、隆兼
148	天文21年11月21日	1552	岡本氏領坪付案写	四 (6171.73-48-4) 152丁	小石見、山口名、桑原、石橋、橋本、渡辺縫殿允、なめら谷(名目良谷)、重富山城守兼道、重富常心入道兼里、岡本大蔵丞(兼祐)
149	天文21年11月21日	1552	岡本氏領坪付写	四 (6171.73-48-4) 154丁	小石見、山口名、桑原、渡辺縫殿允、なめら谷(名目良谷)、重富山城守兼道、重富次郎兵衛入道兼里、岡本大蔵丞(兼祐)
150	天文22年閏正月24日	1553	兼佐・兼智・兼伝連署下文写	四 (6171.73-48-4) 155丁	岡本神四郎、兼佐、兼智、兼伝、釜屋きた、三反田尻
151	(天文23年頃) 8月3日	1554項	福屋隆兼書下案写	四 (6171.73-48-4) 108丁	那賀郡小石見、多陀寺、万寿寺、田中出雲入道(玉泉)、兼貞三男松法師、貞兼(興兼力)、岡本左衛門尉(兼貞)
152	天文24年10月3日	1555	福屋隆兼感状写	四 (6171.73-48-4) 156丁	上野介、兵部大輔、千代延藤左衛門、岡本大蔵丞(兼祐)
153	天文24年10月4日	1555	岡本兼貞宛行状写	四 (6171.73-48-4) 157丁	府中、下府、上府、神主越前守兼貞、東方豊後守
154	天文24年11月10日	1555	福屋隆兼宛行状写	四 (6171.73-48-4) 158丁	千代延藤左衛門尉、岡本大蔵丞(兼祐)、隆兼
155	天文24年11月15日	1555	岡本氏領坪付写	四 (6171.73-48-4) 159-160丁	なんろく院、兵衛大夫、浅井、樺村飛騨、うつほ原、千代延□左衛門尉正勝(藤左衛門尉カ)、野坂若狭守□氏、片山周防守兼明、岡本大蔵丞(兼祐)
156	(天文20 - 天文24年) 8月25日	1551～1555	福屋隆兼書状写	四 (6171.73-48-4) 164丁	小石見、次郎兵衛入道(重富次郎兵衛入道兼里カ)、隆兼
157	永禄2年4月19日	1559	神崎正吉替地状写	四 (6171.73-48-4) 161丁	神崎彦右衛門正吉、大□豊後守、
158	永禄2年10月11日	1559	奥山惣百姓腋中請文案写	四 (6171.73-48-4) 162丁	小石見、三宮、岡本殿、奥山惣百姓中、越前守(兼貞カ)、小国和泉守、兵部大輔
159	永禄3年8月5日	1560	福屋隆兼判物案写	四 (6171.73-48-4) 163丁	小石見、護摩堂、岡本愛王、岡本大蔵丞(兼祐)、隆兼
160	永禄4年正月4日	1561	祐実誓約状写	四 (6171.73-48-4) 169丁	岡本殿、千代延殿、三宮
161	永禄4年12月3日	1561	兼忠宛行状案写	四 (6171.73-48-4) 170丁	永安、岡本兵庫助(正長カ)
162	(天文19 - 永禄4年) 12月11日	1550～1561	福屋隆兼書状写	四 (6171.73-48-4) 166丁	兼兵、岡本

163	(年月日未詳)		扶持在所注文写	五 (6171.73-48-5) 184丁	なわてのはな、孫六右衛門、ほとけ田、とう免、神田、石はしその本
164	(年月日未詳)		扶持在所注文写	五 (6171.73-48-5) 185丁	小谷浮田、もろ田ふり、肥塚三郎右衛門、青野原四郎二郎、うつをはら、わかすき、よこかひ、なめらたに
165	永禄5年2月15日	1562	岡本兼祐・同兼貞連署起請文写	四 (6171.73-48-4) 171丁	三宮、岡本大蔵丞兼祐、岡本弥八郎兼貞、栗屋源三、山県木工助
166	永禄5年2月24日	1562	吉川元春安堵状写	四 (6171.73-48-4) 172丁	小石見、三宮、岡本大蔵丞（兼祐）、元春
167	永禄5年2月26日	1562	吉川元春・毛利元就・同隆元連署寄進状写	四 (6171.73-48-4) 173丁	三宮、元春、元就、隆元
168	永禄5年5月11日	1562	吉川元春一字書出写	四 (6171.73-48-4) 174丁	岡本弥八郎（兼貞・春徳）、元春
169	永禄5年9月1日	1562	山中名知行注文写	四 (6171.73-48-4) 175丁	山中名、山中二郎左衛門、山中五郎衛門、平佐右衛門尉（元保）、森脇一郎右衛門（春秀）、山県左京亮（就在）
170	永禄5年9月14日	1562	岡本氏領知行注文写	四 (6171.73-48-4) 176－177丁	山中名、二郎左衛門、青原、二郎四郎、三宮、岡本大蔵丞（兼祐）、平佐（右脱カ）衛門尉元保、森脇一郎右衛門尉春秀、山県左京亮就在
171	永禄5年9月14日	1562	東方氏領知行注文写	四 (6171.73-48-4) 178丁	東方豊後守、平佐右衛門尉元保、森脇一郎右衛門尉春秀、山県左京亮就在
172	永禄5年12月□	1562	山縣就在寄進状写	四 (6171.73-48-4) 179丁	三宮、（山県）就在
173	永禄5年12月13日	1562	山縣就在寄進坪付写	四 (6171.73-48-4) 180丁	三宮、新そ谷、なめら谷（名目良谷）、福庭兵部少輔、左衛門次郎、かうさ、田中右近丞、くつかた、福原与十郎、催子五郎左衛門、いけ田、今明勘解由、催子次郎左衛門、山県左京亮就在、岡本大蔵丞（兼祐）
174	（永禄5年カ）3月5日	1562カ	吉川元春書状写	五 (6171.73-48-5) 74丁	岡本大蔵丞（兼祐）、岡本弥八郎（兼貞・春徳）、境与三右衛門尉
175	（永禄5年）12月23日	1562	吉川元春書状写	五 (6171.73-48-5) 88丁	岡本大蔵丞（兼祐）、懸合（出雲国「掛合」）
176	（永禄6年以降）5月28日	1563以降	湯原春綱・山県就次連署書状写	五 (6171.73-48-5) 101丁	（山県）就次、（湯原）春綱、岡本大蔵丞（兼祐）
177	永禄9年4月28日	1566	肥塚興明去渡状写	四 (6171.73-48-4) 181丁	肥塚二郎五郎興明、岡本兵庫助
178	永禄11年8月3日	1568	催子五郎左衛門替地状写	四 (6171.73-48-4) 182丁	東条与三左衛門尉、竹追堂、岡本豊後守、催子五郎左エ門
179	永禄13年正月23日	1570	吉川元春加冠并一字書出写	四 (6171.73-48-4) 183丁	元春、岡本神次郎、岡本愛王丸
180	（元亀4年カ）2月27日	1573カ	吉川元春書状写	五 (6171.73-48-5) 71丁	岡本美作守、「之」内蔵（二内蔵の誤写カ）→二宮内蔵カ
181	（天正3年以前）4月20日	1575以前	吉川元春書状写	五 (6171.73-48-5) 75丁	元春、岡本弥八郎（兼貞・春徳）
182	（天正3年以前）6月20日	1575以前	岡本春徳書状写	五 (6171.73-48-5) 165丁	弥次郎、岡本兼祐、岡弥八春徳（兼貞）、忠勝
183	（天正3年以前）8月24日	1575以前	吉川元春書状写	五 (6171.73-48-5) 81丁〈新鳥取県史1051〉	もと春、岡本弥八郎（兼貞・春徳）、二宮七郎兵衛、男山、古志玄蕃允
184	（天正2-3年カ）11月15日	1574～5カ	吉川元春書状写	五 (6171.73-48-5) 85丁	岡本大蔵丞（兼祐）、但馬守、元春

185	(天正2-3年カ) 12月24日	1574~5カ	吉川元春書状写	五 (6171.73-48-5) 89丁	三宮、元春、岡本弥八郎(兼貞・春徳)、井木工(井上)
186	天正4年正月10日	1576	吉川元春官途書出写	五 (6171.73-48-5) 2丁	吉川元春、岡本弥八郎(兼貞・春徳)
187	(天正4年) 正月10日	1576	吉川元春書状写	五 (6171.73-48-5) 66丁	岡本大蔵丞(兼祐)、岡本弥八郎(兼貞・春徳)
188	天正5年8月19日	1577	岡本春讃請文写	五 (6171.73-48-5) 3丁	大野御陣、美作守(岡本兼祐)、二宮佐渡守(俊実)、堺与三右衛門、山中、青原、春讃
189	天正6年□月23日	1578	青木久家兵糧納状写	五 (6171.73-48-5) 4丁 <新鳥取県史1146>	鬼城、青木宗兵衛久家、春盛
190	天正7年2月2日	1579	佐々木清兼書状写	五 (6171.73-48-5) 5丁	安樂寺、佐々木新六清兼、岡本大蔵丞(兼貞・春徳)
191	(天正7年カ) 11月25日	1579カ	吉川元春書状写	五 (6171.73-48-5) 86丁 <新鳥取県史1177>	南条元続、作州表、杉原盛重、新見、尾高番衆、有右(有地元信)、岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、二宮七郎兵衛、小谷内蔵丞
192	(天正7年カ) 12月21日	1579カ	吉川元春書状写	五 (6171.73-48-5) 87丁 <『出雲尼子史料集』1747・新鳥取県史1182>	岡本大蔵(丞脱カ)、兼貞・春徳)、二宮七郎(兵衛脱カ)、小谷内蔵(丞脱カ)、雲伯牢人、有右(有地元信)、有左
193	天正8年5月19日	1580	吉川元春宛行状写	五 (6171.73-48-5) 6丁 <新鳥取県史1209>	小田草城、石州三宮、羽衣石、八橋郡、二内蔵(二宮春次)、岡本大蔵丞(兼貞・春徳)
194	天正8年5月21日	1580	吉川元春安堵状写	五 (6171.73-48-5) 7丁	小田草、三宮、嫡男宮竹、桂左馬助、二宮内蔵助(二宮春次)、岡本大蔵丞(兼貞・春徳)
195	(天正8年カ) 正月13日	1580カ	吉川元春・同元長連署状写	五 (6171.73-48-5) 67丁	元春、元長、杉原盛重、寺畠、高田表(美作)、小谷大蔵(内蔵カ)、岡本大蔵(兼貞・春徳)、二宮七兵衛
196	(天正8年カ) 4月晦日	1580カ	二宮春澄外二名連署書状写	五 (6171.73-48-5) 106丁 <新鳥取県史1350>	岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、二宮春澄、井上春佳、朝枝高明、新見衆、伯州、上野殿
197	(天正8年カ) 5月21日	1580カ	吉川元春書状案写	五 (6171.73-48-5) 76丁 <新鳥取県史1211>	岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、小田草、元春
198	(天正8年カ) 5月22日	1580カ	吉川元春書状写	五 (6171.73-48-5) 77丁	益田殿(元祥カ)、岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、元春
199	(天正8年頃カ) 5月22日	1580頃カ	二宮春次外二名連署書状写(断簡?)	五 (6171.73-48-5) 105丁	岡右(岡本)、桂春房、井原春知、二宮春次
200	(天正8年頃カ) 6月1日	1580頃カ	二宮春次・桂春房連署書状写	五 (6171.73-48-5) 103-104丁 <新鳥取県史1217>	岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、景石、佐々宗左(佐々木宗左衛門尉カ)、桂左春房、二蔵春次
201	(天正8年カ) 6月4日	1580カ	吉川元春書状写	五 (6171.73-48-5) 78丁	岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、元春
202	(天正8年) 6月11日	1580	吉川元長書状写	五 (6171.73-48-5) 27丁 <新鳥取県史1225>	岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、元長、作州小田草
203	(天正8年カ) 6月21日	1580カ	吉川元春書状写	五 (6171.73-48-5) 79丁	岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、二内蔵(二宮春次)
204	(天正8年カ) 6月28日	1580カ	吉川元春書状写	五 (6171.73-48-5) 80丁	岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、河右人質
205	(天正8年頃カ) 7月17日	1580頃カ	二宮春次・桂春房連署書状写	五 (6171.73-48-5) 102丁 <松江市史1097>	岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、佐々布、今田兵部丞、桂左春房、二内蔵春次
206	(天正8年カ) 8月26日	1580カ	吉川元春書状写	五 (6171.73-48-5) 82丁	岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、備前衆、元春

207	(天正8年カ) 9月19日	1580ヶ	吉川元春書状写	五 (6171.73-48-5) 83丁	岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、三次孫右衛門尉、元春
208	(天正8年カ) 10月16日	1580ヶ	吉川元春書状写	五 (6171.73-48-5) 84丁	岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、小林、元春
209	(天正8年カ) 12月2日	1580ヶ	吉川元春書状写	県図書賸写	岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、城山(條山カ)、元春
210	(天正8年カ) 12月16日	1580ヶ	市川春俊外九名連署書状写	五 (6171.73-48-5) 107丁	岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、伊組(但カ)春信、境与三右春倫、井木工春佳、森太春親、朝因高明、森宗平春忠、美市春種、二右春澄、桂左春房、市雅春俊、小田草
211	(天正8年カ)	1580ヶ	岡本大蔵丞書状写	五 (6171.73-48-5) 112丁	もりさと、ミやたけ(岡本宮竹丸)、宗四郎(親貞カ)、大くら(岡本大蔵丞、兼貞・春徳カ)、ぜう山(條山)、山ね
212	天正9年正月26日	1581	井上春佳・二宮春澄連署奉書写	五 (6171.73-48-5) 8丁〈新鳥取県史1317〉	福田(盛雅)、小田草、二右春澄、井塙春佳、岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、三次孫右衛門尉
213	(天正9年以前) 正月18日	1581以前	吉川元長書状写	五 (6171.73-48-5) 23丁	岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、元長
214	(天正9年カ) 正月18日	1581ヶ	吉川元長書状写	五 (6171.73-48-5) 24丁	岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、元長
215	(天正9年カ) 正月18日	1581ヶ	吉川元春書状写	五 (6171.73-48-5) 68丁	岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、新見衆、三次総右衛門、元春
216	(天正9年カ) 正月22日	1581ヶ	吉川元春書状写	五 (6171.73-48-5) 69丁	岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、三次孫兵衛尉、祝山、福田(盛雅)、小田草、中村、元春
217	(天正9年カ) 2月5日	1581ヶ	吉川元春書状写	五 (6171.73-48-5) 70丁	岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、福田(盛雅)
218	(天正9年) 2月5日	1581	井上春佳・二宮春澄連署書状写	五 (6171.73-48-5) 110丁〈新鳥取県史1320〉	福三右(福田盛雅)、三本松、宮石(因州気多郡)、岡本大蔵丞(兼貞・春徳)
219	(天正9年カ) 2月30日	1581ヶ	吉川元長書状写	五 (6171.73-48-5) 25丁〈新鳥取県史1333〉	岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、元長、八橋
220	(天正9年カ) 3月1日	1581ヶ	吉川元春書状写	五 (6171.73-48-5) 72丁	岡本、岡太(岡本大蔵丞カ)、三総右(三次総右衛門)、佐々木宗右衛門尉
221	(天正5~9年カ) 3月2日	1577~81ヶ	吉川元春書状写	五 (6171.73-48-5) 73丁	岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、元棟(仁保元棟)
222	(天正9年以前カ) 3月7日	1581以前	吉川元長書状写	五 (6171.73-48-5) 26丁〈新鳥取県史1685〉	岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、岡本宮竹丸、元長
223	(天正4~9年) 閏5月10日	1576~81	源某書状写	五 (6171.73-48-5) 162丁	岡本大蔵(兼貞・春徳)、岡本美作守(兼祐)
224	(天正9年カ) 6月2日	1581ヶ	二宮春澄外二名連署書状写	五 (6171.73-48-5) 109丁〈新鳥取県史1359〉	岡本大蔵丞(兼貞・春徳)、弥佐衛門、日野田、朝加(朝枝春元)、長信、伊組(但カ)春澄、井上春佳、二宮春澄、鳥執奉行中
225	天正11年2月6日	1583	仁保元棟安堵状写	五 (6171.73-48-5) 9丁	三宮、岡本宮竹丸、岡本大蔵丞殿御手続(兼貞=春徳の手継)、岡本美作守(兼祐)、岡本宗四郎(親貞カ)
226	(天正11カ) 2月6日	1583ヶ	仁保元棟書状写	五 (6171.73-48-5) 12丁	岡本息女、岡本美作守(兼祐)、岡本宗四郎(親貞カ)、岡本宮竹丸、宮内元棟
227	天正12年3月6日	1584	吉川元春官途書出写	五 (6171.73-48-5) 65丁	吉川元春、岡本宗左衛門(春正)、岡本神次郎
228	(天正14年以前) 7月5日	1586以前	吉川元長書状写	五 (6171.73-48-5) 28丁	岡兼(岡本兼祐カ)、元長

229	(天正14年以前力) 9月18日	1586以前 カ	仁保元棟書状写	五 (6171.73-48-5) 19丁	岡本美作守(兼祐)、宮内元棟
230	(天正14年以前力) 10月7日	1586以前 カ	仁保元棟書状写	五 (6171.73-48-5) 20丁	井頭、岡本美作守(兼祐)、宮内元棟
231	(天正14年以前力) 10月20日	1586以前 カ	仁保元棟書状写	五 (6171.73-48-5) 21丁	岡本美作守(兼祐)、宮内元棟
232	(天正14年以前) 11月21日	1586以前	吉川元長書状写	五 (6171.73-48-5) 29丁	岡本美作守(兼祐)、元長
233	(天正14年以前力) 12月25日	1586以前 カ	仁保元棟書状写	五 (6171.73-48-5) 22丁	(三宮)、岡本美作守(兼祐)、元棟
234	(天正15年以前) 2 月6日	1587以前	吉川経言書状写	五 (6171.73-48-5) 96丁	岡本美作守(兼祐)、経言
235	(天正15年以前) 5 月17日	1587以前	仁保元棟書状写	五 (6171.73-48-5) 15丁	井頭、岡本美作守(兼祐)、吉野原、宮内元棟
236	(天正15年以前) 5 月18日	1587以前	仁保元棟書状写	五 (6171.73-48-5) 16丁	岡本美作守(兼祐)、元棟
237	(天正15年以前) 5 月22日	1587以前	仁保元棟書状写	五 (6171.73-48-5) 17丁	岡本美作守(兼祐)、元棟
238	(天正15年以前) 6 月21日	1587以前	仁保元棟書状写	五 (6171.73-48-5) 18丁	岡本美作守(兼祐)、宮内元棟
239	(天正15年以前) 7 月7日	1587以前	吉川経言書状写	五 (6171.73-48-5) 97丁	岡本美作守(兼祐)
240	(天正11-15年カ) 正月8日	1583～ 87カ	仁保元棟書状写	五 (6171.73-48-5) 10丁	岡本美作守(兼祐)、井宗右、宮内元棟
241	(天正11-15年カ) 正月8日	1583～ 87カ	仁保元棟書状写	五 (6171.73-48-5) 11丁	岡本宗四郎(親貞カ)、岡本美作守(兼祐)、宮内元棟
242	(天正11-15年カ) 2月12日	1583～ 87カ	仁保元棟書状写	五 (6171.73-48-5) 13丁	三宮、(岡本)、井宗右、元棟
243	(天正11-15年カ) 2月17日	1583～ 87カ	仁保元棟書状写	五 (6171.73-48-5) 14丁	三宮、岡本美作守(兼祐)、宮内元棟
244	(天正15年以降) 9 月9日	1587以降	吉川広家書状写	五 (6171.73-48-5) 90丁	岡本宗左衛門(春正)、吉蔵人広家
245	(天正15年以降カ) 9月28日	1587以降 カ	繁澤元氏書状写	五 (6171.73-48-5) 51丁	岡本、井宗右、左近元氏
246	(天正15年以降カ) 9月晦日	1587以降 カ	繁澤元氏寄進状写	五 (6171.73-48-5) 52丁	(三宮)、岡本宗左衛門(春正)、元氏
247	(天正15年以降カ) 10月28日	1587以降 カ	繁澤元氏書状写	五 (6171.73-48-5) 53丁	岡本宗左衛門(春正)、万寿丸、元氏
248	(天正15年以降) 10月29日	1587以降	吉川広家書状写	五 (6171.73-48-5) 93丁	岡本惣左衛門尉(宗左衛門、春正)、吉蔵人広家
249	(天正15年以降) 11月18日	1587以降	吉川広家書状写	五 (6171.73-48-5) 94丁	岡本宗左衛門(春正)、岡本弥八郎
250	(天正15年以降カ) 11月25日	1587以降 カ	繁澤元氏書状写	五 (6171.73-48-5) 54丁	(三宮)、岡本、勝九郎、元氏
251	(天正15年以降) 11月15日	1587以降	吉川広家書状写	五 (6171.73-48-5) 91丁	岡本宗左衛門(春正)、吉蔵人広家
252	(天正15年以降) 11月26日	1587以降	吉川広家書状写	五 (6171.73-48-5) 92丁	岡本宗左衛門(春正)
253	(天正15年以降) 11月27日	1587以降	吉川広家書状写	五 (6171.73-48-5) 95丁	岡本宗左衛門(春正)、岡本甚次郎、蔵人広家
254	(天正15年以降カ) 12月19日	1587以降 カ	繁澤元氏寄進状写	五 (6171.73-48-5) 56丁	(三宮)、岡本宗左衛門(春正)、元氏
255	(天正15年以降カ) 12月28日	1587以降 カ	繁澤元氏書状写	五 (6171.73-48-5) 58丁	三宮、岡本宗左衛門(春正)、元氏

256	天正16年11月27日	1588	堺甚右衛門寄進状写	五 (6171.73-48-5) 98丁	三宮、岡本大蔵（？）、田屋名、細谷
257	(天正16年以降力) 正月2日	1588以降カ	繁澤元氏書状写	五 (6171.73-48-5) 30丁	三宮、岡本宗左衛門（春正）、元氏
258	(天正16年以降力) 正月3日	1588以降カ	繁澤元氏書状写	五 (6171.73-48-5) 31丁	三宮、岡本宗左衛門、元氏
259	(天正16年以降力) 正月3日	1588以降カ	繁澤元氏書状写	五 (6171.73-48-5) 32丁	三宮、岡本宗左衛門（春正）、左近允元氏
260	(天正16年以降力) 正月5日	1588以降カ	繁澤元氏書状写	五 (6171.73-48-5) 33丁	三宮、岡本宗左衛門（春正）、元氏
261	(天正16年以降力) 正月5日	1588以降カ	繁澤元氏書状写	五 (6171.73-48-5) 34丁	三宮、岡本宗左衛門（春正）、元氏
262	(天正16年以降力) 正月8日	1588以降カ	繁澤元氏書状写	五 (6171.73-48-5) 36丁	岡本宗左衛門、元氏
263	(天正16年以降力) 正月15日	1588以降カ	繁澤元氏書状写	五 (6171.73-48-5) 37丁	三宮、岡本宗左衛門（春正）、元氏
264	(天正16年以降力) 正月20日	1588以降カ	繁澤元氏書状写	五 (6171.73-48-5) 38丁	岡本宗左衛門（春正）、元氏
265	(天正16年以降力) 2月2日	1588以降カ	繁澤元氏書状写	五 (6171.73-48-5) 39丁	岡本宗左衛門（春正）、元氏
266	(天正16年以降力) 3月5日	1588以降カ	繁澤元氏書状写	五 (6171.73-48-5) 40丁	三宮、岡本宗左衛門（春正）、米若丸（氏正カ）、賢織（ママ）、元氏
267	(天正16年以降力) 3月20日	1588以降カ	繁澤元氏書状写	五 (6171.73-48-5) 41丁	三宮、岡本宗左衛門（春正）、岡本弥八郎、元氏
268	(天正16年以降力) 3月23日	1588以降カ	繁澤元氏寄進状写	五 (6171.73-48-5) 42丁	三宮、岡本弥八郎、元氏
269	(天正16年以降力) 4月25日	1588以降カ	繁澤元氏寄進状写	五 (6171.73-48-5) 43丁	三宮、岡本弥八、元氏
270	(天正16年以降力) 6月6日	1588以降カ	繁澤元氏書状写	五 (6171.73-48-5) 44丁	岡本宗左衛門（春正）、岡本二番息、広家、元氏
271	(天正16年以降力) 6月7日	1588以降カ	繁澤元氏書状写	五 (6171.73-48-5) 45丁	三宮、岡本宗左衛門（春正）、元氏
272	(天正16年以降力) 6月20日	1588以降カ	繁澤元氏書状写	五 (6171.73-48-5) 46丁	岡本宗左衛門（春正）、御方息子、元氏
273	(天正16年以降力) 6月23日	1588以降カ	繁澤元氏寄進状写	五 (6171.73-48-5) 47丁	三宮、岡本、元氏
274	(天正16年以降力) 7月2日	1588以降カ	繁澤元氏書状写	五 (6171.73-48-5) 48丁	岡本宗左衛門（春正）、元氏
275	(天正16年以降力) 7月26日	1588以降カ	繁澤元氏書状写	五 (6171.73-48-5) 49丁	岡本宗左衛門（春正）、元氏
276	(文禄元年カ) 8月 8日	1592カ	繁澤元氏書状写	五 (6171.73-48-5) 50丁	岡本宗左衛門（春正）、高麗、左近元氏
277	(文禄3年カ) 12月 8日	1594カ	繁澤元氏書状写	五 (6171.73-48-5) 55丁	(三宮)、岡本宗左衛門（春正）、賢職、元氏
278	文禄3年12月20日	1594	玉泉庵賢識外二名連 署書状写	五 (6171.73-48-5) 115丁	地久寺、氏一、氏孫、(玉泉庵) 賢識
279	(文禄3年カ) 12月 20日	1594カ	繁澤元氏寄進状写	五 (6171.73-48-5) 57丁	三宮、岡本宗左衛門（春正）、元氏
280	(天正15年-文禄4 年頃カ) 正月8日	1587～ 1595	繁澤元氏書状写	五 (6171.73-48-5) 35丁	三宮、岡本宗左衛門（春正）、元氏
281	慶長2年4月28日	1597	石見国三宮寄進田坪 付写	五 (6171.73-48-5) 116丁-117丁	三宮、岡本惣左衛門尉（春正）、 下なめら谷（名目良谷）、細谷ノ 九郎右衛門、赤つゑ、中村新左衛 門、在田淡路守、催夫五郎左衛門、 催夫新左衛門、大崎四郎兵衛尉

282	慶長3年8月19日	1598	小石見内打渡坪付案写	五 (6171.73-48-5) 118丁-120丁	小石見、玉泉庵賢識、東方又十郎、繁澤次郎兵衛尉
283	慶長5年2月9日	1600	繁澤元氏一字書出写	五 (6171.73-48-5) 121丁	岡本平三郎 (氏正)
284	(慶長17年カ) 2月24日	1612カ	繁澤立節書状写	五 (6171.73-48-5) 59丁	三宮、岡本宗左衛門 (春正)、与三右、左近立節
285	(慶長17年カ) 3月19日	1612カ	繁澤立節書状写	五 (6171.73-48-5) 60丁	岡本宗左衛門 (春正)、萩十兵衛、左近立節
286	(慶長17年カ) 9月12日	1612カ	繁澤立節書状写	五 (6171.73-48-5) 61丁	(三宮)、岡本宗左衛門 (春正)、宮内 (繁澤元景カ)、繁澤左近入道立節・十郎兵衛
287	(慶長17年カ) 9月26日	1612カ	繁澤立節書状写	五 (6171.73-48-5) 62丁	三宮、岡本宗左衛門 (春正)、繁澤左近入道 (立節)
288	(慶長17年カ) 11月21日	1612カ	繁澤立節書状写	五 (6171.73-48-5) 63丁	三宮、銀山、岡本宗左衛門 (春正)、萩十兵、左近立節
289	(慶長17年カ) 12月7日	1612カ	繁澤立節書状写	五 (6171.73-48-5) 64丁	銀山、岡本、(三宮)、石川与右衛門、佐神左、繁澤左近入道立節
290	(年月日未詳)		正令外十名等連署書状 (断簡) 写	五 (6171.73-48-5) 113丁	岡本宗左衛門、正令、長沢美作守盛治、佐々木肥前守兼忠、佐々木善兵衛国重ほか
291	(年月日未詳)		川内分坪付断簡写	五 (6171.73-48-5) 181-182丁	いやか廻、原田、篠田、江木ノ前、清水尻、あさい、堂ノはな、わさい清水ノ尻、清水ノ尻、高さ川、西東
292	(年月日未詳)		検地帳写断簡	五 (6171.73-48-5) 183丁	壱町田、孫十郎、井の、源四郎、さうし田、与三郎、おうたに、九郎さへもん、三郎右衛門、宮のさこ、めけやま、四郎三郎、江木之前、まこ十郎、めけやま、次郎三郎、あけ山、あの山くち、徳若
293	(年月日未詳)		知行注文写	五 (6171.73-48-5) 186丁	山中名、はさま名、九郎太夫名、かもんの助 (掃部助)、まこ太夫名、十郎えもん、かきの木本、いけ田名、さいとう名、しらか谷名、七てうの名、すき山名
294	(年未詳) 12月1日		二宮就辰書状写	五 (6171.73-48-5) 161丁	岡本、二宮太郎右衛門就辰
295	(年未詳) 8日		水野庄左衛門書状写	五 (6171.73-48-5) 164丁	益田、岡本惣左衛門 (春正)
296	(年月日未詳)		毛利記抜書	五 (6171.73-48-5) 172丁	浜田、松原、三宮ノ神主岡本大蔵丞春盛 (ママ)、三子山城、桂左衛門大夫
297	(年月日未詳)		毛利記抜書	五 (6171.73-48-5) 173丁	雲州杵築上官赤塚伊予重照 (多宮正親第弐之弟)、岡本
298	(年月日未詳)		某覚書写	五 (6171.73-48-5) 174丁	のふなが (織田信長)、森 (毛利)、しばちくせん (羽柴秀吉)、あけち (明智光秀)、ひろ家 (吉川広家)、元氏 (繁澤元氏)
299	(年月日未詳)		某覚書写	五 (6171.73-48-5) 176丁	大こう (豊臣秀吉)、ひろ家 (吉川広家)、元氏 (繁澤元氏)
300	(年未詳) 6月21日		岡本正親覚書写	五 (6171.73-48-5) 177丁	岡本右近 (正親)、赤塚竹五郎、毛利元氏
301	(万治元-3年カ) 11月9日	1658~1660	毛利就方書状写	五 (6171.73-48-5) 100丁	岡本千之介、大膳大夫 (毛利綱広カ)、仙家主水
302	天明7年12月28日	1787	多陀寺添状写	四 (6171.73-48-4) 109丁	岡本御氏、多陀寺